

正保2年(1645)の国絵図に描かれた雄勝湾の浜(国立公文書館デジタルアーカイブ)



宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた 平川 新

# 未来への航路

雄勝は世界一の良港

女川湾を出たビスカイノは、さらに北上して雄勝湾に入りまし

た。ミチュハマとバケという浜があり、その奥にオンガチがあると書いていますので、水浜と分浜、雄勝のことでしょう。雄勝についてビスカイノは、あらゆる風から守られて、湾の入り口も船着き場も水深が深く、これまで見た港のなかでは世界一優良だと、べた褒めしています。住民も多く、食料も安価で豊富にあり、薪やその他の必需品も容易に手に入るので、我々が希望に最も適しているともあります。ビスカイノが探しているのはマニラ・ガレオン船がメキシコに向かうさいの寄港地ですから、入り江が深くて寄り付きのよい港と物資

の豊かさこそ条件にかなっていたのです。金鉱もあると書いています。どこにあったのでしょうか。政宗が2レグア(約8キロ)ほど離れたところで鹿狩りをしていると聞いたビスカイノは、飛脚を出して調査済み図面を届けています。港湾調査をするのですから測量士や地図士などが逐次製図していたのでしょう。色つきで書かれた地図を見た政宗は、領内に良港を見つけたことができたのはよかったですと礼

## ②5 ビスカイノ、雄勝湾を見る

うです。これより前、ビスカイノが大原にいた12月には元和(1615年)に御仮屋が建てられて追波川(北上川)流域でも、しばしば鹿狩りをしたと考えるとよいでしょう。ビスカイノが港湾調査をしていたときも、このあたりで鹿狩りをしていたので

状をよくし、鹿などの獲物を送ってきたとあります。製図の仕方を見てみたいとも言っていますので、西洋式製図法に関心をもったよ

20日、ビスカイノは政宗に探検の結果を報告しています。政宗は今後も報告を続けるようにと返事をしていますが、近くで鹿狩りをしていて聞いたビスカイノは、23日にも雄勝から政宗に報告をしたのでした。

### 政宗の鹿狩り

政宗がどこで鹿狩りをしていたのかは、政宗の動向を記した「貞山公治家記録」にも書かれていないので、残念ながらわかりません。しかし政宗が遠島(牡鹿半島)で鹿狩りをし、千頭近くを取ったとの記録があります。政宗が鷹狩り、鹿狩りを好んでいたことは、側近の伊達成実が書いた『政宗記』に「遊山癖」だったためです。少しあとのことになりませんが、牡鹿郡大原



大原の御仮屋跡 (google map)



ひらかわ・あらた 昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館館長に就任した。

政宗は、藩主が鷹狩りや鹿狩りの際に滞在する建物のことです。しばしば来ていたので大原に御仮屋が建てられたのでしよう。政宗は、亡くなる5カ月前の寛永13年(1636年)5月に、桃生郡十五浜へ鹿狩りに出かけて、名振や横川に泊まったとあります(『政宗記』)。名振には戦国時代以来の在地土豪で肝入を務めていた永沼家がありましたので(本連載③「北上町史の編さん」)、同家に宿泊した可能性があります。こうした政宗の動き

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26-31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。